

荷主に選ばれる物流サービス



大日精化工業

東京製造事業所長
齋藤 修氏

荷主企業から

一言

当社では創業八十二年を迎える「色材の総合メーカー」。昭和六年に国産顔料メーカーとして前身の彩華顔料合資会社が設立。十九年東京・足立工場（現・東京製造事業所）をつくりこれを母体として、社名も現在の「大日精化工業」になった。繊維、自動車、家電、建材、印刷など、幅広いあらゆる場面で当社の製品が活用されている。

自社の物流を全面的に移管

第一貨物さんとの関係は平成十二年から。関東地区に強く製品でも信頼できる第一貨物さんに、東京、川口両製造事業所の物流業務をアウトソーシングする共同プロジェクトを立ち上げた。東京製造事業所は約三万三千平方メートル敷地内に三つの生産工場と複



実輸送の安定供給と顧客ニーズを捉えた提案営業を自指す

第一貨物

第一貨物（本社・山形市、武蔵野ドバイ・ロジスティクス幸福社長）が大切にするのは、顧客がどんな物流サービスを求めているかを追求する顧客目線に立っていることだ。第一貨物さんは「お客様第一主義」の姿勢だ。差別化戦略では、特選企業として人・車間・施設の自前駆力に

包括的な物流を提案

ニーズを捉え変化対応

より実輸送を両立する一方、顧客ニーズを的確に捉え柔軟に対応する。ここで、特選企業の枠に止まらない新しい物流の形をつくりだせた。トラック以外の仕事を取り込むことで流通加工も手掛け、長年の取組が同社を3PLへ昇格。提案力を発揮できるマンパワー

ここに注目！

運行便の効率化によるコスト削減を開始。ト競争力強化を図るため昨年、従来、東京・大阪間の運行を通過して荷量のアンバランスを解消・効率化する。同時に、支那方面の安定輸送を確保し、顧客のニーズに対応する。

JTLで幹線を効率化

JTL（Japan Transit Line）は下りの東京発便に比べ上りの大阪発便の荷量が多く、結果として下りの便の積載効率が一気に向上した。JTLは、支那方面の安定輸送を確保し、顧客のニーズに対応する。

「顧客第一」実感 さらなる提案に期待

重観の姿勢については高く評価している。おととしの東日本大震災では、第一貨物さん自身が深刻な被害を受けたにもかかわらず、当社仙台支店へも物資供給を絶やさないで、被災エリアの情報提供や送付状況も逐一発信。当社の営業活動を支援してくれた。偽りのない「顧客第一」の姿勢に本当に感謝している。

物流通じて価値を創造

「目下への対応は、いかなる時も絶えず」との輸送力を安供給するため、昭和十六年の設立以来変わらない、教育の伝統により磨かれた高い従業員たちが、不断の輸送を支える。



武蔵 幸規社長

当社は、全国ネットワークを生かして特別積み合わせ輸送を主体に、企業のサプライチェーン（供給網）を支援する包括的な物流サービスの提供に取り組んでいる。

企業概要

本社・山形市藤崎町2ノ1/20
設立・昭和十六年3月 資本金・21億1,979万円
従業員数・4,495人 車両台数・4,540台
事業所数・72カ所
主要荷主・大日精化工業、ヤマダ電機、住友スリーエム、でん六、パナソニックロジスティクスなど
主要営業エリア・北海道圏、東北圏、北陸信越圏、関東圏、中部圏、近畿圏
事業種目・貨物自動車運送、貨物利用運送、航空運送代理店、通関、倉庫、荷造梱包、物流システム設計・運営など
売上高・698億93百万円（平成24年3月期）